スペイン・バリャドリード大学
交換留学報告書

静岡県立大学　国際関係学部

国際言語文化学科４年　ヨーロッパコース

スペイン・バリャドリード大学セゴビアキャンパスへの交換留学は苦労もあったが結果としては、非常に満足いく留学生活を送ることができた。初の海外長期滞在となったが、特にトラブルに合うこともなく、無事に終えることもできた。

私が住んでいたセゴビアは、小さくのどかな街で、その中心には世界遺産に登録されている水道橋やアルカサルのある観光地でもあった。近くに山間部があることから、比較的寒い気候であったが、首都であるマドリードからも遠くなく適度に生活しやすい場所であった。

私の通っていた大学は、１３世紀に創立された歴史ある大学で、本拠地バリャドリードだけでなく、セゴビアを含む４か所にキャンパスを展開している。毎年世界各国からも留学生を受け入れている。私が学んだセゴビアキャンパスは、世界遺産の街という特色から観光学に力を入れており、私も主に観光学の講義を受講した。講義では、スペインの観光業の発展の歴史や現在の特徴、地域ごとの特色などを学んだ。講義形式は基本は座学だが、学生同士で問題を考える機会やグループでプレゼン発表をすることもあり、とても実践的なものであった。自分のスペイン語力不足もあり当初は講義についていくのかなり苦労したが、教授やクラスメイトの助けのおかげで少しずつ慣れることができた。現地の学生と共に講義を受ける経験は交換留学ならではだと思うので、貴重な経験ができたのではないか。また、セゴビアキャンパスでは、日本人留学生の

受け入れは初だったそうで、あまり日本人への馴染みはない印象を受けたが、教授や学生たちはとても温かく接してくれた。

セゴビアではアパートに他に 3 人の留学生と共同で生活していた。それぞれ、イタリア、フランス、コロンビアという異なる国籍だったため、アパート生活は非常に楽しいものだった。それぞれの文化の違いや国についての話をするのはとても楽しいものでした。特に、スペイン語が母国語であるコロンビア人の留学生には、スペイン語で苦労した際には相談に乗ってもらったり、一緒に大学のフットサルリーグに参加するなど、とても良い関係を築くことができた。また、世界各国から来ている留学生同士で家に集まり、映画を観たりパーティをするなど楽しい思い出を得ることができた。この出会いで現在でも連絡を取り合う友人も得ることができた。アパートでの共同生活は初めてで始めは少し不安もあったが、アパートメイトと話したり、掃除分担を決めたり、インターネット設備の取り付けに奮闘したりと色々なことがあり、1 人での生活より何倍も良い経験ができた。

学業以外では、大学のフットサルリーグに参加したり、地域のサッカーチームに混ざってサッカーをよくしていた。この経験で、現地の人々や生のスペイン語に触れることができた。サッカー大国であるスペインでは、やはりサッカー好きが多く、街中のバルでも放送されているサッカーを観る人で賑わっていた。スペインサッカーリーグの試合も現地観戦する機会もあり、そんな現地の

雰囲気を感じることができて、1人のサッカー好きとしてはとても嬉しかった。

スペインで生活をしてみて気づいた点として、文化の違いはもちろんだが、自分は日本人だという意識が以前より強くなったことがある。私が住んだセゴビアではアジア人がほとんどいなかったが、街中でよく中国人と間違われることが多く、決して差別を受けたというわけではないが、留学以前より自分は日本人だという思いが強くなった。ある意味で海外でも物怖じしないメンタルが身についたとも言えるかもしれない。また、日常生活でも大学も自分の意思をはっきりさせることが重要だと実感した。日本ではよく空気を読むとか物事をはっきり言わないことが多々あるが、スペインでは話すコミュニケーションが絶対の文化であるため、まずは自分の意思をはっきり言う必要がある。街で歩いていも知り合いがいれば話しかけるし、スペイン人はとても気さくなところがある。そうした背景から、自分から積極的にコミュニケーションを取れば比較的すぐに関係を築くことができる印象を受けた。そうした文化の違いを実感できたことは、国際関係学部で学ぶ学生としてとても有意義であった。

最後に、この半年間の交換留学に協力してくださった担当教授である森先生、海外事業支援をしてくださった国際関係学部の同窓会の方々、学生室の国際交流課の方、そして応援してくれた両親に感謝したい。半年間のみという留学生活であったが、様々な貴重な経験をすることができたのも協力してくださ

った方々、そしてスペインで私に温かく接してくれた人々のおかげである。私はこのスペインでの半年間を生涯忘れないと思う。来年からは社会人となるが、仕事でスペイン語を使用する可能性もあるためスペイン語学習は続けて行く予定であり、今回の留学生活で得たものもぜひ活かしていきたいと考えている。

バジャドリード大学
交換留学報告書

静岡県立大学　国際関係学部

国際言語文化学科４年　ヨーロッパ文化コース

私は、2018 年 9 月から 2019 年 2 月までの半年間、スペインのカスティーリャ・イ・レオン自治州にあるバジャドリード大学セゴビアキャンパスで、交換留学生として生活した。この半年間で経験したことを、学校生活と私生活の 2 つにわけて報告させていただきたい。

その前に、私が半年間生活したセゴビアという街について簡単に紹介する。セゴビアは、スペインのほぼ中心に位置する首都のマドリードから北西へ 90ｋｍほど（電車で約 30 分）の場所にある人口 5 万人ほどの比較的小さな街である。街の中心には、セゴビア旧市街とこの街のシンボルともいえる大きな水道橋があり、共に世界遺産に登録されている。そのため、この街の人口は少ないものの、マドリードから近い観光名所ということもあり、中心部は常に多くの観光客でにぎわっていた。気候は、私が滞在していた秋から冬にかけてのものに関していうと、スペインの他の都市と比較しても寒く、昨年は 10 月に降雪があった。その後も、最低気温が氷点下となる日々が帰国日まで続いたため、セゴビアへ秋から留学を考えている方々には防寒を心がけることをおすすめする。

ここから留学生活の報告に移る。まずは、学校生活に関する報告をさせていただきたい。私が交換留学生として通った「バジャドリード大学」はスペイン国内に 4 つのキャンパスを有する公立大学で、県大からの半年間の交換留学生は「セゴビアキャンパス」への留学となる。セゴビアキャンパスで学べる学問の分野は主に 8 つに大別さ

れており、留学生はすべての学部の授業から自分のとりたい授業を履修してよいとされていた。私は当時、大学卒業後は海外旅行を扱う旅行会社に就職したいと考えていたこともあり、最も関心があった「Turismo（観光)」という学部の授業を２つ履修した。一つが「Historia del Turismo(観光の歴史)」、もう一つが「Geografia Turistica(観光地理)」である。両授業ともにネイティブの学生向けに全スペイン語で行われ、また一回９０分の授業が各々週２回ずつあるため、１週間でかなりの量の授業内容をこなす必要があり、留学生の私にとってはたった２つの授業でも周りのネイティブたちとと同じペースについていくことは決して易しいものではなかった。課題も与えられ、両授業とも中間課題としてプレゼンテーション、期末課題として論述テストがあり、なかなか充実した内容の授業課程であった。授業のスタイルは基本的にパワーポイントを用いた講義形式であるが、授業内に複数の生徒が積極的に発言や質問をする光景が印象的だった。留学生の私にとっては、予習をしても毎回の授業において理解度が６０パーセントほどで、授業内で発言をすることは難しく、自らの力でそれ以上理解度を１００パーセントに近づけることは困難だった。しかし、両授業の先生、生徒ともに留学生の私に対してとても良心的であった。学生に授業内で理解できなかったところを質問すれば、自らのノートのコピーをくれたり、また彼らから気にかけて「今のところわかった？」と聞いてくれたりなどして非常に協力的な姿勢で接してくれ、授業の理解度の向上に貢献してくれた。先生も、授業内であまり理解が追い付かずに

発言がない私のことを配慮して、時々授業の中で日本に関するトピックを話題にして私に発言の機会を与えてくださるなど、周りに比べハンディキャップがあるにもかかわらず周りと同様に扱ってくださっていることがよく感じられ、心地よく勉強ができた。

次に私生活についての報告をさせていただきたい。留学生活で私が一番心がけていたことが「ネイティブの友達をつくる」ことである。他国からきた留学生とは英語を交えながら話すことが多く、また彼らのスペイン語はどうしても誤りや彼らの国の言語からくるアクセントが目立った。質の高いスペイン語を上達させるためには彼らの輪から離れてネイティブの中へ入っていくことが効果的であると考え、私は放課後や授業のない日は、一人でバル（スペイン人が多く利用する飲食店）へ出かけてみたり、「インテルカンビオ」という日本語を学びたいスペイン人が集まる会に参加してみるなど、現地の人たちとの交流の機会を積極的にみつけていった。その結果、多くのネイティブの友達ができ、日常会話のレベルを飛躍的に向上させることができた。

また、私は旅行が趣味であり、授業がない日はセゴビアの外へ出かけていることが多かった。前述したようにセゴビアは首都のマドリードから近く、マドリードまで出ればそこからスペイン国内の様々な都市への交通網が張られている。公共交通機関の運賃は日本に比べて安く、セゴビアからマドリード間を片道４ユーロで結ぶバスがあったため、私はよくそのバスでマドリードへ出ては様々な都市へ一人で旅行に出かけて

いた。留学生活が終わるころにはスペイン国内の大きな都市はすべて、海外旅行も 7 か国を訪れることができ、すべてがとても貴重な経験となった。

　最後になるが、留学生活を振り返ってみて、今回の留学は想像の何倍も実り多いものとなった。言語習得が最大の目的であったが、その他にも親や友人などの頼れる存在がいない中で自ら考えて行動する力や、様々な国の人々との交流から得られた協調性、積極性などが培われた。この経験はその後の自分に大きな自信をもたせ、また就職活動でも強みとなった。改めてこうした貴重な機会を与えてくださった県立大学、両親、その他の支えてくださった方々には心から感謝申し上げたい。この経験を、今後の人生に活かし、社会に貢献出来るよう努めたい。